

仙台市環境影響評価審査会 議事録（要旨）

- 日 時 平成 26 年 7 月 25 日（金） 13 時 30 分～16 時 25 分
- 場 所 小田急仙台ビル 3 階 会議室 4
- 出席委員 持田委員，永幡委員，小森委員，松木委員，三上委員，溝田委員，安井委員，山口委員，山崎委員，山田委員，山本委員
- 欠席委員 風間委員，武山委員，松八重委員，横山委員
- 事務局 瀧澤環境企画課長，菊地環境対策課長，田中環境都市推進課長，環境調整係

- 審議 (1) ヨドバシ仙台第 1 ビル計画環境影響評価方法書について  
(2) 仙台医療センター建替等整備計画環境影響評価準備書について
- 報告 (1) 東北大学青葉山キャンパス整備事業に係る事業調査報告書（第 2 回）案について

- 事業者 1 株式会社ヨドバシカメラ
- 事業者 2 独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター
- 事業者 3 国立大学法人 東北大学

事務局 【次第 1 開会】  
・ 審査会成立報告

事務局 【次第 2 資料確認】  
・ 資料確認

持田会長 【次第 3 審議】  
《公開・非公開の確認》  
原則公開。ただし，個人のプライバシー及び希少な動植物の生息場所に関する事項があれば非公開とする。  
→（各委員了承）  
議事録署名 山崎委員に依頼  
→（山崎委員了承）

持田会長 それでは審議に入る。  
審議事項 1 の「ヨドバシ仙台第 1 ビル計画環境影響評価方法書について」である。今回は 2 回目の審議となる。前回の審査会以降の指摘事項に対する事業者の対応方針を伺った上でさらに審議を重ねる。  
それでは資料の説明をお願いする。

事務局 資料説明の前に，事務局から方法書説明会の開催状況及び意見書の提出状況について申し上げる。ヨドバシ仙台第 1 ビル計画環境影響評価方法書の説明会は 7 月 4 日（金）に開催された。また，意見書の提出期間は 7 月 29 日（火）までとなっており，意見書の提出の有無及び内容については 8 月審査会で報告の予定である。

<p>事業者 1 持田会長 永幡委員</p>	<p>前回審査会以降の指摘事項と対応方針については、事業者から説明いただく。</p> <p>(資料 1 について説明。)</p> <p>ただいまの説明に対して、皆様からご質問、ご意見をお願いします。</p> <p>供用時の屋外スピーカーからの騒音について、等価騒音レベル (<math>L_{Aeq}</math>) で予測・評価することとしているが、拡声器騒音に関しては多くの自治体が最大騒音レベル (<math>L_{Amax}</math>) で評価していたと思われる。当該影響についても最大騒音レベル (<math>L_{Amax}</math>) で予測・評価して頂きたい。</p>
<p>事業者 山崎委員</p>	<p>承知した。</p> <p>資料 1 の 1. 事業計画・全般的事項に対する指摘事項 1 番について確認させて頂きたい。事業計画地は、JR 東日本 (株) (以下、「JR」とする。) の仙台駅東口開発計画の事業地に隣接しており、工事期間が重複するとのことだが、実際は JR の工事期間が長いため、JR の工事が引き続き実施される中、当該事業による工事は終了し、先行して供用が開始されることになる。そのことを踏まえ、改めて工事中及び供用後の環境影響評価の考え方を教えて欲しい。</p>
<p>事業者 1  山崎委員</p>	<p>同資料の対応方針に示したとおり、工事中については、先行する JR の工事が行われている状態をバックグラウンドとして、調査・予測・評価を行う。供用後については、JR の事業も全て供用された状態を想定して予測・評価を行う。</p>
<p>持田会長</p>	<p>了解した。JR の環境影響評価図書が大変参考になると思うので、ぜひ有効に活用して頂きたい。</p> <p>JR の工事が引き続き実施される中で、当該事業が先行して供用開始される期間において、JR の工事用車両と計画建物への来店車両との間で問題は生じないのか。</p>
<p>事業者 1</p>	<p>JR の工事車両は、駅前広場を挟んで反対側から出入りすると聞いているので、計画建物への来店車両と直接バッティングするような問題は生じないと考える。</p>
<p>永幡委員 事業者 1</p>	<p>事後調査はどの段階で行う予定か。</p> <p>事後調査については、基本的には準備書での予測条件とする時期に行う。JR の事業の進捗状況を見据えつつ、適切な実施時期について検討したい。</p>
<p>持田会長</p>	<p>事業計画等がもう少し具体化しないと何とも言えないのが事実であるが、方針としては、委員からの指摘については事業者におおよそ対応いただけるという理解だが、それでよろしいか。</p> <p>それでは、追加の質問、ご意見等があれば後ほど事務局に提出をお願いします。次回は、事務局に答申案を用意して頂き、それを基に議論をする。</p>

持田会長	<p>それでは、続いて審議事項 2 の「仙台医療センター建替等整備計画環境影響評価準備書について」の審議に入る。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本事業の環境影響評価準備書及びその要約書は、6月20日付で提出され、6月25日から1ヶ月縦覧を行い、説明会は6月30日に開催された。意見書の提出期間は8月7日までとなっているので、意見書の有無及び内容については、8月の審査会で報告の予定である。</p> <p>本案件は、通常と同じように本日を含め3回の審議で答申をいただくことを予定している。準備書の内容については、事業者から説明いただく。</p>
事業者 2	<p>(別冊資料について説明)</p>
持田会長	<p>それでは、ただいまの説明に対して、委員の皆様からご質問ご意見、よろしくをお願いします。</p>
山本委員	<p>方法書に対する市長意見への対応として、現病院の解体に際する配慮事項を準備書に示したとあるが、その具体的な記載箇所がわからないので教えてください。</p>
事業者 2	<p>準備書 1-74 ページに記載した。</p>
山本委員	<p>了解した。しかし、当該ページが、1.7.3 工事管理計画という節の最後(6)その他としてまとめられているため、大変分かりづらい。1.7.3 節の冒頭である 1-71 ページにも、解体時に配慮する旨の記載が一文あると分かりやすい。</p> <p>次に、病院の解体の時期と期間について教えていただきたい。</p>
事業者 2	<p>平成 29 年初頭に新病院を開院する予定であり、開院後に現病院を解体する予定である。解体期間は半年から1年ぐらいになると思われ、平成 29 年中に解体される予定である。</p>
永幡委員	<p>ヘリコプターの騒音予測 (<math>L_{den}</math>) について、環境省のマニュアルでは、航空機整備等の地上騒音も評価に含めることとしている。そのため、本案件の予測では、ヘリコプターの飛行及びホバリング時がその対象となるが、準備書 8.2-62 ページの予測条件には、ホバリングの時間をどのように設定したのかの記載がない。</p>
事業者 2	<p>予測にあたっては、ホバリング時のヘリコプターのパワーレベルを含めて計算していると思われるが、その時間をどのように設定したのか確認し、予測条件に記載する。</p>
永幡委員	<p>その時間設定によって評価が変わってくるので、ぜひお願いしたい。</p> <p>次に、ヘリコプターからの低周波音について、「低周波音問題対応の手引書(環境省平成 16 年 6 月)」を引用しているが、当該手引きには、固定された音源に適用し、交通機関等の移動音源には適用しないと記載されている。また、同手引きには、環境アセスメントの環境保全目標値等として策定したも</p>

事業者 2	<p>のではないとされている。そのあたりはどのように考えているのか。</p> <p>調べた限りでは、ほかに適用できるような文献等がなかったため、当該手引きを適用した。</p>
永幡委員	<p>色々と情報収集を試みたが、確かに、低周波に係る環境基準等がないため、引用できるものは当該手引きしかない。実際に、今話題の辺野古の環境アセスにおいても、低周波音に係る評価の際には、当該手引きを引用している。しかし、現在のところ他に適切な文献等がないため、本手引きを適用していること、今後新しい知見が得られればそれを基に改めて予測評価をし直す旨は、きちんと明記しておくこと。</p>
事業者 2	<p>了解した。</p>
永幡委員	<p>準備書 8. 2-66 ページに等価騒音レベルの予測値が示されているが、実際の飛行では非常に大きな騒音レベルが生じると思われる。事業の公益性を勘案する必要はあると思うが、この結果について事業者としてどのように考えるのか。</p>
事業者 2	<p>確かに予測値は若干高いが、県が決定した事業であり、予測結果をもって事業をとりやめるということは難しい。</p>
永幡委員	<p>住民をどう守るかという話だと思う。この場所でヘリを飛ばさなければいけないとなると、騒音の問題は、騒音源あるいは伝播経路で対策するか、最後は受音点側で対策するしかない。</p>
事業者 2	<p>経路については、なるべく民家に影響のない経路を選んでいる。</p> <p>また、騒音源としては、極力騒音レベルの低い機器を選定することにはなると思うが、ドクターヘリは、防災ヘリ等と比べると小さいヘリになる。さらに騒音レベルが小さいものをというのは難しい。</p>
永幡委員	<p>伝播経路のことを考えるのであれば、ヘリポートを屋上に持っていけば良いのではないか。</p>
事業者 2	<p>今回の計画では、屋上と地上の 2 箇所へヘリポートを設置することを計画している。このうち、患者さんは屋上ヘリポートに搬送することを想定している。格納庫は地上ヘリポートにあるので、最後はヘリを地上に戻さなければならない。ただし、地上ヘリポートの場所を決める際には、民家からなるべく遠い敷地南東側を選定した。</p>
永幡委員	<p>そのことはホバリング時の騒音に対しては効果があるだろう。予測では建物の遮蔽については考慮されていないので、間に新病院があることを考えると、ホバリング時の周辺家屋への騒音影響に関しては、それなりに抑えられると想定される。</p>
持田会長	<p>準備書 8. 2-66 ページの表 8. 2-43 では、航空機騒音に係る環境基準 57dB に対し、最も高いのは予測地点 5 番の 64 dB である。一方、同ページの表 8. 2-41</p>

	<p>を見ると、飛行時の最大騒音レベルが示されており、この値はもっと高い。予測地点3番の仙台育英学園高校では最大89dB、最も高い地点では99dBという大変高い値が出ている。この値は、若干高いというレベルではない。事業者は、すごいクレームが出る可能性がある値だという認識を持つべきだ。</p> <p>ヘリが飛ぶ時間は、決まっているのか。高校の授業時間への配慮は可能なのか。</p>
事業者2 持田会長	<p>要請があった際に飛ぶことになるため、授業中もあり得る。</p> <p>授業中に仙台育英学園高校の3階で最大89dBの騒音が聞こえることもあり得るということだ。事業の性質上それはしょうがないことかもしれないが、ものすごくインパクトが大きな話だということを理解しているのか。</p>
事業者2	<p>騒音が発生するという事は、病院側としても、十分理解している。その上で飛行経路も検討した。しかし、飛行経路も自由に選定できるものではなく、周囲の建物の状況等によって制限がある。今後は、ヘリ運航の事業者が決定した後に、パイロットに対し、飛行時の技術的な面からの配慮をお願いしたいと考えている。ただし、ヘリが飛ぶ以上は、どうしても騒音は発生するので、ご理解を頂きながらやっていきたい。</p>
永幡委員	<p>理解できるかどうかというのは審査会が決める話ではなく、周辺の住民が決める話だ。医療の世界ではインフォームドコンセントが行われている。同様に、どのくらいの騒音が出る可能性があるということをきちんと説明し、その上で住民の方が納得するのであれば問題ないことだと思う。</p>
事業者2	<p>準備書に係る説明会では、今回の予測結果等について、一通り説明させていただいた。</p>
永幡委員	<p>私は地域住民としてその説明会に出席したが、あの程度の説明ではインフォームドコンセントを行ったとは思えない。</p>
事業者2	<p>私どもとしては、資料として要約書を配布し、今想定されている内容についてはきちんと説明させて頂いたと考えている。</p>
永幡委員	<p>実際にヘリコプターが飛んだ際に、住民から何も問題が出なければ良いが、この予測値を見ると、本当に大丈夫なのかと非常に心配している。</p>
事業者2	<p>今回、説明会を開催するに当たり、育英高校を始め周辺の事業所を回らせていただき、ヘリコプターが飛び、騒音が出るということをきちんと説明させて頂いている。また、これまでも搬送用のヘリが病院に飛んで来ることもあり、周辺の方々は、ヘリが来ること、またその際の騒音については、ある程度ご存じだと思う。</p>
永幡委員	<p>それはどのくらいの頻度で飛んでいたのか。</p>
事業者2	<p>年に数回である。</p>
永幡委員	<p>しかし、今度のドクターヘリは毎日飛行する。</p>

事業者 2	確かに、年数回と毎日では異なる。ただし、先ほどもご説明したとおり、これまで飛んできた市の消防ヘリ等に比べて、今回導入するドクターヘリは一回り小さいものだ。
永幡委員	確認だが、1日1回とある一方で、東北大学とこちらの病院で輪番制との記載もある。輪番ということは、飛ぶ日と飛ばない日があるということではないのか。
事業者 2	東北大学病院と当院が基地病院に選定されたが、格納庫は当院にのみ設置される。東北大学病院が当番の日の朝には、当院の格納庫から大学病院のほうへ飛んでいくこととなるため、1日1回は飛ぶことになる。
永幡委員	そうすると、1日1回よりは必ず多く飛ぶことになるのではないか。
事業者 2	当院が当番の日に出動の要請がなければ、その日の飛行はない。ただし、全国平均で年344回ということを考えて、当院の当番の日も1日1回の飛行が想定される。一方、東北大学病院の当番の日には、先ほどご説明したとおり、当院から大学病院のほうへ朝行って、夕方戻ってくるので、その場合も1日1回である。
持田会長	すると、住民側にとって、騒音を受けるのは1日2回になる。 準備書 8.4-5 ページを見ると、低周波音圧レベルも高い値が予測されているが、これは大丈夫なのか。
永幡委員	本当に大丈夫なのかよくわからない。少なくとも最終的な評価が甘いのではないか。
事業者 2	ドクターヘリを導入した他県によれば、その基地病院に対して苦情が寄せられているというのは極めて少ないとは聞いている。
永幡委員	そうでもない。ホームページ等を見ると、やめてくれとまでいうものはあまりないかもしれないが、何とかしてほしいというレベルの苦情は結構見られる。例えば、福島県立医大のように周囲に住宅が少ないところに基地があるのであれば問題ないと思うが、本院はかなりの都市部にある。
事業者 2	都市部でもドクターヘリを導入しているところは多い。高度急性期病院でドクターヘリを導入するとなると、都市部の病院にならざるを得ない。そのような中で、なるべく民家や高校への影響を少なくすることを考慮し、地上ヘリポートの位置を選定した。また、屋上のヘリポートに患者さんを搬送することとし、その後地上ヘリポートに戻ることなくそのまま屋上で待機ができるよう屋上ヘリポートにも給油設備を設けるなど、事業者として可能な限りの配慮はしている。今後の飛行経路についても、JR貨物の移転後に県有地となり公園化されれば、より配慮が可能ではないかということ航空コンサルと考えている。
持田会長	他にも議論する点があるので、ここでこの議論は終わるが、今回の予測結

果から、1日1回程度の飛行だからと安易には考えず、事業者はこの問題を重く受け止め、対応策をよく考えて頂きたいというのが審査会からの意見だ。

では、他に。

三上委員

準備書 8. 14-9 ページにおいて、既存文献資料で計画地の周辺地域での分布情報があるヨタカについて、本計画地は同種にとっての渡りの中継地であることが記載されている。私の希望としては、きちんと調査を行って計画地が中継地であることを確認した上で、予測して頂きたかったが、今回の調査結果からは中継地であることを言い切ることはできない。また、方法書に対する市長意見のとおり、同種にとっては、複数の緑地が面的に存在することが重要であり、周辺に緑地が残るから影響が小さいとの記載はおかしい。例えば、「本種の習性から考えると、おそらく事業計画地は中継地だと思われる。計画地は緑化を行うことから、影響は小さいと予測される。また、今後の事後調査で確認する。」というような内容の記載の方が適切だ。

また、バードストライクについて、準備書 8. 14-10 ページに「現病院で衝突の事例が確認されておらず、バードストライクの恐れが小さい」とあるが、建物の高さも変わることもあって、そうとは言い切れない。バードストライクによって鳥の個体群に影響するということは、それほどないと思われるが、病院という施設であることを考えると、衛生面およびイメージの面から、鳥の死体が落ちているような状況はよくないと思うので、もう少し慎重な予測が望ましい。また、窓を鏡面状にしない、シールを貼る、カーテンをする等、さらなる配慮が望ましい。

事業者 2

参考にする。

松木委員

緑化について、まず1点目として、準備書の 8. 13-25 ページに新植木は郷土種から選定する旨が記載されているが、一方で 8. 13-28 ページの植栽計画図によると外来種であるイギリスナラをあえて目立つ場所に植栽することが示されている。この理由は何か？ このような場所こそ、郷土種を使うことが望ましい。

また、2点目として、8. 13-29 ページでは、ノシバを全面的に貼ることを計画しているようだ。ノシバは日陰には適さないため、密に樹木を植栽する箇所には活着しないのではないか。また、8. 13-27 ページの表 8. 13-17 によれば、郷土種であるノシバを用いるとあるが、ノシバは冬季には枯れてしまうことになるが如何か。

事業者 2

植栽を計画している専門の者に改めて確認させていただく。

溝田委員

準備書 8. 13-27 ページの表 8. 13-17 の新植木の一覧に食樹や吸密等の情報が記載されている。蝶を呼ぶような樹種を選定することは良いことだが、どのような蝶が来ることを想定してこれらの樹種を選んだのかわからない。例

	<p>例えば、ツツジはアゲハチョウが吸蜜することを想定して選定したと思われるが、アゲハチョウの幼虫が好む食樹はサンショウやユズであり、これら樹種が選定されていない。また、ソメイヨシノが食樹になっているが、これはメスアカミドリシジミチョウの幼虫が好む樹種である。しかし、この蝶は、森の深いところにいる種であり、計画地のような環境にはいない。せつかく色々と配慮して頂いているので、もう少し練ったものをつくっていただきたい。</p>
事業者 2	<p>植栽を計画している専門の方に確認しながら、どういう蝶を誘引しようとしているのか整理したい。</p>
山崎委員	<p>準備書 4-32 ページにおいて、大気質、騒音及び振動の予測地点を、方法書で提示した 5 地点から 3 地点に変更されているが、これは元寺小路福室線の供用が見えないからか。</p>
事業者 2	<p>知り得る範囲では、いつ供用するかはっきり見えてこない。少なくとも工事は来年始まるので、それまでの供用はないだろうと考える。そのような理由により、予測地点を変更し、当該ルートを使わないことを想定して予測条件を設定した。</p>
永幡委員	<p>車の流れに関し、地下鉄東西線ができればバス路線や車の流れが大きく変わると思うが、その辺は予測にどのように反映されているのか。</p>
事業者 2	<p>予測は、現況交通量に、想定される工事用車両や施設関連車両台数を上乗せした形で行っている。ご指摘の将来ネットワークについては想定していない。</p>
永幡委員	<p>この件に関し、事務局には確認をして頂き、得られた情報を事業者に提供して頂きたい。</p>
事務局	<p>関係各課に確認し、情報があればお伝えしたい。</p>
安井委員	<p>気密性及び断熱性に関し、準備書 1-48 ページに JIS 断熱等級の H-2 等級相当の窓サッシを採用するとあるが、H-2 等級では不十分である。せめて H-3 等級を採用して頂きたい。平面図を見ると北側のガラス面積が大きい。このためサッシによる建物の断熱性能に及ぼす影響が大変大きくなると思うので、サッシの等級を再考することは可能か。</p>
事業者 2	<p>今回、病院の南側にはスタジアム等があるので、騒音等の観点から北側に病室を配置した。北側は今後公園に整備されると聞いているので、ガラスを大きくして、ベッドに寝ていても外の景色が見えるように配慮した。その結果、断熱的にはマイナス要素となってしまったことは事実なので、特に病室のサッシ性能というのはもう一度検討したい。</p>
持田会長	<p>補足だが、次世代省エネルギー基準において仙台地域では H-3 等級以上の断熱性能を求めている。今回の H-2 等級では、平成 4 年次の旧省エネ基準並みだ。国立病院の病室の環境を考えれば、それはあり得ないと思う。</p>



事業者 2	次に、同じく準備書 1-48 ページに示されている PAL 低減率が 12%程度というのは、国立病院としてあまりにも低すぎる。
持田会長	現在設計中であり PAL 計算が確定しておらず、低めに示した暫定的な値である。
事業者 2	この値は、潜熱を含めているのか。
持田会長	今の値には入っていない。
山田委員	それで PAL 低減率が 12%とは、国立病院としてなっていない。2010 年版 CASBEE で評価を 4 以上にすることを考えると 15%以上は必要だ。PAL 低減率が低いのは簡単な理由で、北側に広い開口を作ったことで、断熱性能が低くなっている。エネルギーコストが上昇していることも勘案し、あとで困ることがないように、建築設計段階からの断熱対策のあり方について再検討願いたい。
事業者 2	準備書 1-42 ページ (3) 排水設備計画 ア 一般排水系統において、「厨房排水は、グリーストラップにて動植物性油脂を除去した後に、生物処理で汚泥処理し、下水道に排水する」とあるが、これは、汚泥を微生物処理後に、下水道処理するということか。具体的な内容がわかるように、もう少し丁寧に記載して頂きたい。また、同 (3) 排水設備計画において、汚泥等の固形廃棄物の処理が生じる場合には、その旨を明記してほしい。
山田委員	承知した。
事業者 2	水循環に関して、準備書 8.7-1 ページによれば、雨水の平均流出係数が 2 倍以上となるとの予測結果である。8.7-2 ページには、雨水流出抑制施設の設置に関しては、仙台市建設局と協議中とあるが、具体的な記載がされていない。ゲリラ豪雨など局所的な雨水による冠水被害等が生じていることも考慮し、例えば、駐車場の下に調整施設を造る等、雨水抑留施設の設置に対して前向きな対応を検討してほしい。
持田会長	この件については、開発協議の手続の中で仙台市建設局下水道部と協議中である。ご指摘いただいた点は前向きに検討したい。
事業者 2	エネルギーセンターの自然災害への対応について、ゲリラ豪雨等による冠水・浸水対策はされているのか。また、準備書 1-56 ページによれば、病院本体等は免震構造であるが、当該建物は耐震構造となっている。この点はどうか。
	エネルギーセンターに関しては、敷地の傾斜を考慮して南側に配置したため、雨水による冠水・浸水の心配は少ないと考える。また、電気系統は 2 階以上に置くことで冠水・浸水対策をしている。
	また、外部インフラとの接続の観点から、免震構造ではなく耐震構造を採用した。

持田会長	<p>風害に関し、準備書 8.12-24 ページに、工事完了後の冬季の卓越風を想定した地上 1.5 メートルの風速分布図を示しているが、計画建物の南側の風速が大きい。これは病院の利用者に対して問題ないか。</p>
<p>事業者 2 持田会長</p>	<p>南側は、業者の搬入路になるので、患者に直接的な影響はないものと思う。現病院の敷地については、現況に比べて解体工事完了後の方が、風が強くなると予測されている。現病院跡地はどのような利用がされるのか？</p>
<p>事業者 2 持田会長</p>	<p>宮城県により公園利用されると聞いている。 最後に 8.12-7 ページに記載の風害に係る予測式には、間違いがあるので修正していただきたい。 それでは、この件については以上とする。追加の質問、ご意見などあれば、後ほど事務局に提出をお願いする。今回は、本日のご意見、追加のご意見及びご質問について対応方針をお示しいただき、さらに審議を重ねたいと思う。</p>
持田会長	<p>【次第 4 報告】 次に報告に入る。 「東北大学青葉山新キャンパス整備事業に係る事後調査報告書（第 2 回）案」について、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>東北大学青葉山新キャンパス整備事業については、平成 20 年 2 月 6 日に評価書の公告を行った。 今回は供用時の環境影響についての事後調査報告書（第 2 回）の案について事業者より報告いただく。</p>
<p>事業者 3 持田会長 三上委員</p>	<p>（資料 3 について説明） それでは、委員の皆様のご意見、ご質問をお願いする。 鳥類・昆虫類の記述に関し、供用後の評価の書きぶりに 2 つ問題がある。 1 つは、「影響はなかった」と無理やり結論づけているように見える点だ。例えば、環境影響評価時と供用後調査時で、確認回数が変わらなければ「影響がなかった」とし、減っていれば「減ってはいるが、確認できているので問題はない」とし、少なかった種がいなくなると「もともと多くはいなかったので大きな影響はないだろう」と記載している。影響は個体数が少ない種にかかりやすいこともあるので、減少しているのであれば影響があったと考えるべきだ。 もう 1 つは、この種にとって、この場所は重要な生息地ではないのでいなくなっても問題はない、という記載がされている点だ。環境影響評価では、その地域、つまりこの場合、青葉山にこの種がいるということが重要であるので、ここからいなくなっても良いという考え方は間違っている。 まず、「減った」ことは「減った」ときちんと評価し、記載することが重要だ。これだけ環境を改変し、1 種も絶滅させないと考えること自体、少し無</p>

事業者3 持田会長	<p>理があったと思う。減ったが問題はないと記載することは一切やめるべきだ。</p> <p>その上で、青葉山を保全するための環境保全措置の実施状況を記載し、全体としての結論を持ってくると良いと思う。</p> <p>ご指摘の点に関し、修正する方向で検討させていただきたい。</p> <p>事後調査書 6-11 ページで植物が 32 種から 11 種となっているが、これはかなり減っているように見える。植物だけに限らず、どれだけ減ったかが分かるように記載してほしい。</p>
事業者3 持田会長	<p>先ほどの三上委員の指摘と合わせて修正させていただきたい。</p> <p>また、工事中に一度いなくなったものが、工事が終わり、再び戻ってくるということはないのか。</p>
事業者3 持田会長 事業者3 松木委員	<p>ニホンアカガエルなど、両生・爬虫類では一旦なくなったものが、再び確認されるということもある。</p> <p>その点もはっきり分かるように記載して欲しい。</p> <p>はい。</p> <p>6-115 ページに関し、事後調査結果によるとタヌキが非常に増加しているが、増えた理由は何か。また、このようにタヌキが増えていることをどのように捉えているのか。タヌキが増えることにより、他の生物種に負の影響が及ぶ可能性やその危険性についてもきちんと記載しておいた方が良いのではないか。</p>
事業者3  松木委員	<p>タヌキ及びテンに関しては、ここがゴルフ場として使用され、人の往来が激しかった頃には人を避けていたと考えられるが、その後工事が行われ、工事完了後に、人の出入りが少なくなった空き地がタヌキやテンなどが利用しやすい環境になったと考えられる。しかし、今後は建物が建ち、学生等に利用されるようになれば、再び人を避け、個体数を減らしていくと考えている。</p> <p>タヌキは昆虫や植物を食べるので、もしかしたら増えたタヌキによって減ってしまっている種もいるかもしれない。タヌキの個体数と、他の生物種の個体数の因果関係等は分からないか。</p>
事業者3 松木委員	<p>現段階では分からない。</p> <p>現段階では因果関係等が分からなかったりすると思うが、このように劇的に増えた種や、逆に劇的に減った種については今後、注視していった方が良いと文章に記載していただくと良いと思う。</p>
事業者3 山崎委員	<p>承知した。</p> <p>2-2 ページでは平成 25 年で造成工事終了とあるが、2-10 ページをみると、一部まだ終了していない部分もあるようなので、そのことがきちんと分かるように修正してほしい。</p>
事業者3	<p>修正する。</p>

山田委員	4-23 ページのイトモ池について、現在は事後調査の一環として、管理作業を行っているようだ。管理をし続けなければイトモは維持できないように見えるが、事業終了後の管理はどうしていくのか。
事業者 3	昨年の調査で、しばらく確認できなかったイトモが復活しているのを確認し、それは人の手による管理があったおかげだと考えているので、イトモ池については、何らかの管理作業を行う方向で検討している。
山田委員	維持管理の必要性があるのであれば、そのことについても是非記載をお願いしたい。事業終了後、管理されなくなってしまうとは意味がないと思う。
事業者 3	承知した。
溝田委員	6-183 ページのイトモ池は昆虫のホットスポットにもなっているようにみえる。また水生昆虫が多いようにみえるので、将来にわたり水辺の保全を行うとともに、そこに周辺の森のネットワークを確立することが必要だと思う。池の南側に駐輪場や駐車場が来るようだが、街灯の光等で昆虫が誘引されないよう、昆虫を誘引しにくい光を使うとか、池の周りを樹木で囲って光が届かないようにする等の配慮をしっかりと行って欲しい。
事業者 3	照明は4-22 ページにあるような、光をかなり抑えた光源を利用するとともに、拡散防止ルーバーをつける等の配慮を行っている。
安井委員	隣にスポーツゾーンがあるが、これはナイター用設備を備えたものか。ナイター用施設があるのであれば、夜、かなり明るくなるのではないか。
事業者 3	現段階ではわかりかねるので、持ち帰り確認したい。
持田会長	この位置にイトモ池があり、生態系の面で重要な場所であることについて、キャンパス計画者にうまく伝わっているか。
事業者 3	伝わっている。
持田会長	この辺りがとても重要な場所であることをキャンパス計画者に、しっかり考えていただきたい。 それでは、この件については以上とする。 本日の質問、意見を事後調査報告書の作成にできる限り反映させるように配慮をお願いする。
事務局	【次第 5 事務連絡】 ・追加意見の聴取 本日審議した事業について追加意見 8月1日(金) 夕方5時まで ・次回審査会 8月29日(金) 13:30~ 予定案件 ヨドバシ仙台第1ビル計画方法書(3回目) 仙台医療センター建替等整備計画準備書(2回目)
事務局	【次第 6 その他】

	特になし
事務局	【次第7 閉会】 《審査会終了》

平成26年 9月30日

仙台市環境影響評価審査会会長

氏名 持田 灯 (印)

仙台市環境影響評価審査会委員

氏名 山崎 剛 (印)

